様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１０日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：２００９～２０１１
課題番号：２１４０１０２５
研究課題名（和文）　現地史料収集・既存史料再検討に基づくヴェトナム莫氏政権の研究

研究課題名（英文）　The Research of Mac Government (Vietnam) based on collecting new historical materials and reexaminating existing materials

研究代表者
八尾　隆生（YAO　TAKAO）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：５０２１２２７０

研究成果の概要（和文）：

莫氏研究のための新しい史資料として、現地での文書・碑文史資料、口述資料、北部山地を越えた中国側の史資料、それに考古学資料が活用できることが判明した。まず写本家譜を多く収集することが、族の全容解明に役立つ。口述資料は扱いが難しいが、家譜が作成されなかった約２世紀間の空白を埋める重要なものである。カオバン莫氏を公認した清朝の公私の文書史料にも新事実が多く含まれていると考えられる。ズオンキンに残る煉瓦や砲弾など考古学資料はその成分分析により、莫氏時代の物流に関する研究を推進することが期待される。

研究成果の概要（英文）：

As the new historical materials for the research of the Mac dynasty (Vietnam), local documents, inscriptions, oral materials. Historical materials of China over the northern mountains areas of Vietnam, and archaeological evidences became clear to be utilized. First to collect many genealogies will help complete elucidation of Mac family. Oral materials are difficult to handle but important materials to fill the vacuum of two centuries before the family made out the genealogies. New facts also will be found in the official and private documents of Qing China that officially acknowled Mac dynasty in Cao Bang area. The analysis of the ingredients of archaeological evidences such as artillery shells and bricks remained in the Duong Kinh citadel is expected to promote the study on the distribution system of Mac period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
２０１０年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
２０１１年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総　計	12,400,000	3,720,000	16,120,000

研究分野：ヴェトナム近世史学
科研費の分科・細目：東洋史
キーワード：(1) 莫氏 (2) 家譜史料 (3) 碑文史料 (4) カオバン省 (5) バクザン省 (6)ハイズオン省 (7) フンイエン省 (8) バクニン省

１．研究開始当初の背景

本科研参加者はいずれも主にヴェトナム漢文史料に基づき、各王朝の権力構造や支配

のメカニズム、地方間の政治勢力の拮抗状態等の解明につとめてきた。このようにヴェトナム本国を除いてヴェトナム前近代史をほぼカヴァーできるのは日本だけと言っても過言ではなく、その研究も、本国の研究者ですら利用してこなかった新出の地方史料や未公刊史料をも用い、量だけではなく質的にも世界トップクラスであると自負できる。ただ、その中で抜け落ちているのが黎朝後期と時代的に一部かぶる莫朝史研究である。比較的豊富な史料を残す中越関係史分野を除いて、この政権に関する研究は皆無に近い。

一方、経済開放政策の進展に伴い、伝統的な祭礼や「一族」意識の復興運動が盛んとなり、ヴェトナム本国では、各名族が族譜を集めて再編纂をし、祠堂の再建なども行っている。歴史上、「逆賊」「売国徒」などと封建王朝編纂の書籍に記された族も、名誉回復を目的として研究者を招いて学術会議を組織し、その報告集も多く刊行されている。莫氏の場合も同様で、多くの書籍が刊行されたが、碑文、遺跡からの史料を用いた研究を除いては実際のところ新味に乏しい。そんな中、ようやく 2001 年に総合的な研究書『書籍と碑文に基づく莫朝の歴史』が出たが、やはり家譜など地方史料を使用していない弱点は克服されているとはいえない。

２．研究の目的

本研究は、19 世紀以前の前近代ヴェトナム史研究において、研究の空白となっている莫朝史研究の研究環境を整えるため、同王朝の本拠地であるヴェトナム紅河デルタ東縁（東部デルタ）、及び首都ハノイを追われ、地方政権として１世紀以上にわたって根拠地としていた北部山地地帯（越北地方、現ランソン、カオバン省）において史資料及び遺址の調査を行い、合わせて国内及びハノイにおいて、莫朝史研究において重要史料である碑文史料の活用法を生み出すことを目的とするものである。そのため、東部デルタ及び北部山地を中心に新史料を捜索し、合わせて既存の史料（年代記、碑文など）及び研究業績の総整理を、歴史学を中心としつつ、民族学、考古学の手法を取り入れることにより、莫氏研究の礎を築きたい。

３．研究の方法

本研究は実地調査に基づく新史料（莫氏末裔の所有する家譜史料、近年族内で編纂されている新しい資料、碑文資料、それに既存史料と家譜史料の狭間を埋める口述資料）の収集と、既存・既知の史料の総整理・活用を合わせて行い、莫氏統治期前後のヴェトナム紅河東部デルタ及び北部山地地帯（ランソン、カオバン）の地理的・歴史的特質を解明するとともに、莫氏政権の統治機構を解明しようとするものである。実地調査対象地は 2009 年度にはカオバン省及びハイフォン市、2010 年度にはハイズオン省、2011 年度にはカオバン省を除く北部山地諸省とする。

４．研究成果

最大の目的である新史資料の収集作業は、地域によって大きく差が出ることとなったが、それでも30点を超える新史資料の収集に成功した。まずハノイにある「莫族連絡事務所」には各地から多くの情報や史資料が寄せられていた。そこで10点を超える家譜史料の入手に成功した。かたや初年度のカオバン省ではまず省博物館及び図書館にて莫氏関連の史料調査を行ったが、カオバンの歴史に関する新出の史料は入手できたものの、莫氏に関する直接の文書史料はほとんど得られなかった。また現地でも９県15箇所以上の莫氏子孫の居住地を訪問したが、漢文史料を残している家は一軒もなかった。また莫氏への帰属意識も聞き取り調査では概して低く、平野部でさかんな「族復興運動」がこの地では低調でかつ受け身であることが判明し、17世紀のカオバン政権時代の莫氏研究の困難さを再認識した。

ハイズオン省及びハイフォン市は莫氏の本拠地でもあったため、30家族に及ぶ調査により、家譜、勅封、碑文等の文字史料の収集は比較的順調に進んだ。このうち碑文２基の分析は研究代表者である八尾がすでに行い、論文として発表している。既存史料と現地史料の狭間を埋める口述資料も相当蓄積したが、これをどう学問的に扱うかが課題となっている。例えばカオバン政権の崩壊によって逃亡してきたという伝承を多く残す一族が山地に近いヴィンフク省で多く存在したが、莫氏拡散の過程復元は口述資料に頼らざるをえない。彼らの現在の居住地を丹念に地図に落とてみることで、その拡散の過程を今後考察してみたい。

皮肉なことに、国境を越えた中国には莫氏に関する文書史料が比較的多いことが判明した。台湾の故宮博物院図書文献館及び中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館には清代中国－ヴェトナム関係に関する中国側の檔案史料があり、莫氏に関連する情報も多く、収集した文書を丹念に読み進めていく必要がある。また、広西壮族自治区の省都南寧及び同自治区の龍州市・靖西県では，莫氏などとも関わりをもったとされる土司の墓や墓碑などを調査することができた。莫氏に関する中国人研究者の論文も増加傾向にあり、注意が必要である。

考古学隊は莫氏政権期とその前後の時期

に関して、物質文化研究を目的とした発掘調査を行った。具体的には 14 世紀の胡朝城遺跡などの出土資料の資料化、14-18 世紀における大越国の外港である雲屯関係の貿易陶磁出土資料による外港機能の盛衰調査、莫氏の祖廟があったハイフォン市ズオンキン遺跡出土資料の研究などである。本科研が目指したもののうち新出史料の公開、利用法の開示には既に一部着手しているが、個別の学術論文の執筆はこれからである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

１．八尾隆生，前近代ベトナム碑文研究緒論，須江隆（編）『碑と地方志のアーカイブズを探る』汲古書院，査読無，巻無，2012年，381-412頁.
２．蓮田隆志，旧例と憑―近世中部ベトナム村落の生存戦略，新潟大学人文社会・教育科学系附置環東アジア研究センター（編）『環東アジア地域における社会的結合と災害』新潟大学人文社会・教育科学系附置環東アジア研究センター，査読無，巻無，2012年，161-188頁.
３．嶋尾稔，ベトナム阮朝期の徴税・徴兵に関する新史料の紹介，『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』，査読無，第43号，2012年，249-261頁.
４．西村昌也，陶磁器を文化交渉学に応用するために～九州・沖縄地方を例に，『陶磁器の文化交渉学』関西大学文化交渉学教育研究拠点，査読無，2012年，印刷中.
５．八尾隆生，ヴェトナムにおける漢喃本の研究と収集の現状，大澤顯浩（編著）『東アジア書誌学への招待』，東方書店，査読無，第２巻，2011年，41-60頁.
６．Momoki Shiro, “Mandala Champa” Seen from Chinese Sources, Trần Kỳ Phương, Bruce M. Lockhart (eds.), *The Cham of Vietnam: History, Society, and Art*, Singapore: NUS Press, 査読有，巻無, 2011, pp.120-137.
７．嶋尾稔，ベトナム阮朝期のラオス方面ルートに関する覚書，研究費成果報告書『中・近世ベトナムにおける権力拠点の空間的構成』（課題番号：20320111、研究代表者：桃木至朗），査読無，巻無，2011年，149-158頁.
８．嶋尾稔，17世紀後半ベトナム北部村落における「売亭文契」に関する覚書，『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』，査読無，第42号，2011年，289-303頁.
９．松尾信之，1930年代ベトナムにおける土地台帳関連資料の意義，『名古屋商科大学論集』，査読無，55巻２号，2011年，227-238頁.
10．八尾隆生，社会規範としてのベトナム『国朝刑律』の可能性－書誌学的考察より－，山本英史（編）『近世の海域世界と地方統治』汲古書院，査読無，巻無，2010年，203-229頁.
11．八尾隆生，ベトナム陶磁とその故郷，『地域アカデミー2009公開講座報告書』，査読無，巻無，2010年，053-063頁.
12．桃木至朗，大越（ベトナム）李朝の昇竜都城に関する文献史料の見直し，『待兼山論叢』史学編，査読無，44号，2010年，１-29頁.
13．Momoki Shiro, Nation and Geo-Body in Early Modern Vietnam: A Preliminary Study through Sources of Geomancy, Geoff Wade and Sun Laichen (eds.), *Southeast Asia in the 15th Century and the China Factor*, Singapore: Singapore University Press, 査読有，巻無，2010, pp.126-153.
14．武内房司，ヴェトナム国民党と雲南－滇越鉄路と越境するナショナリズム－，『東洋史研究』，査読有，69巻１号，2010年，92-122頁.
15．武内房司，地方統治官と辺疆行政－十九世紀前半期、中国雲南・ベトナム西北辺疆社会を中心に－，山本英史（編）『近世の海域世界と地方統治』汲古書院，査読無，巻無，2010年，171-201頁
16．武内房司，一九世紀前半期、雲南南部地域における漢族移住の展開と山地民社会の変容，塚田誠之（編）『中国国境地域の移動と交流－近現代中国の南と北』有志舎，査読無，巻無，2010年，117-143頁.
17．嶋尾稔，ベトナム阮朝の辺陲統治－ベトナム・中国国境沿海部の一知州による稟の検討－，山本英史（編）『近世の海域世界と地方統治』汲古書院，査読無，巻無，2010年，273-330頁.
18．嶋尾稔，ベトナムの家礼と民間文化山本英史（編）『アジアの文人が見た民衆とその文化』慶應義塾大学言語文化研究所査読無，巻無，2010年，101-143頁
19．嶋尾稔，阮朝硃本と『大南寔録』，『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』，査読無，第41号，2010年，205-224頁.
20．桃木至朗，現代日本における歴史学の危機と新しい挑戦，『歴史科学』，査読無，197号，2009年，1-12頁.

〔学会発表〕（計 11 件）

１．Momoki Shiro, Local Rule of Đại Việt under the Lý dynasty: Evolution of a Charter Polity after the Tang-Song Transition in East Asia, Association for Asian Studies, annual conference (session 199), March 17, 2012, Toronto city Canada.

２．武内房司, 辛亥革命与越南光復会, 「辛亥革命与世界」国際研討会, 2011 年 10 月 20 日, 北京市　中華人民共和国.
３．Momoki Shiro, New Lights on the Charter Polity of Dai Viet: A Comparative Approach with Goryeo and Other Small Empires in Southeast and Northeast Asia, International Workshop: Empires and Networks: Maritime Asian Experiences 9th to 19th centuries, Feb. 21, 2011, Singapore city Singapore.
４．Momoki Shiro, A Spatial Analysis of Thang Long Capital during the Ly Period through Re-exploitation of Written Sources, International Conference on Southeast Asian Studies: Beyond Boundaries: Southeast Asian History, Culture, and Society, Oct. 29, 2010 Seoul city South Korea.
５．Momoki Shiro, Các công trình được xây đắp trong và ngoài kinh đô Thăng Long thời Lý, Hội thảo khoa học quốc tế: Phát triển bền vững thủ đô Hà Nội văn hiến, anh hùng, vì hòa bình, Oct. 8, 2010, Hanoi city Vietnam.
６．武内房司, 從西江走廊看十九世紀前期的中越関係－以雲南和越南西北部傣族社会為中心的考察－香港・中文大学、香港・科技大学、中国・中山大学主催「明清帝國的建構與中國西南土著社會的演變」國際學術研討會, 2010年６月20日, 広州市　中華人民共和国
７．Momoki Shiro, How Can Research and Education in the History of Vietnam and Southeast Asia Develop in Northeast Asian Countries?: A Case Study in Japan, Third International Forum on Historical Reconciliation in East Asia: Promoting Interest in and Understanding of History of Southeast Asia including Vietnam, August 28, 2009, Seoul city South Korea.
８．Momoki Shiro, Revitalizing Historical Research and Education: A Challenge from Osaka, Plenary Panel Session: Educations of World History: A Comparative Perspective, 1st Congress of Asian Association of World Historians, May 31, 2009, Osaka city.
９．武内房司, 箇舊錫業與世界～兼論近代雲南與法属越南之間的経済交流, 上海・復旦大学歴史地理研究中心主催「清代地理国際学術研討会」, 2009年11月14日, 上海市　中華人民共和国.
10．嶋尾稔, ベトナムにおける家礼の受容と展開, 広島史学研究会2009年度大会, 2009年11月14日, 東広島市.
11．嶋尾稔, ベトナムにおける朱子家礼の受容と展開, 国際シンポジウム「朱子家礼と東アジアの文化交渉」, 2009年11月３日, ソウル市　大韓民国.

〔図書〕（計８件）
１．西村昌也他（編著）, 関西大学文化交渉学教育研究拠点, 『フエの歴史と文化：周辺集落と外部からの視点』, 2012年, 636頁.
２．西村昌也他（編著）, 関西大学文化交渉学教育研究拠点, 『周縁と中心の概念で読み解く東アジアの「越・韓・琉」：歴史学・考古学研究からの視座』, 2012年, 194頁.
３．西村昌也（編著）, 関西大学文化交渉学教育研究拠点, 『東アジアの茶飲文化と茶業』2011年, 250頁.
４．桃木至朗（単著）, 大阪大学出版会, 『中世大越国家の成立と変容－地域世界の中の李陳時代ベトナム史－』, 2011年, 473頁.
５．武内房司（編著）, 明石書店, 『越境する近代東アジアの民衆宗教－中国・台湾・香港・ベトナム、そして日本』, 2011年, 376頁.
６．西村昌也（単著）, 同成社, 『ベトナムの考古・古代学』, 2010年, 360頁.
７．山本英史、嶋尾稔他（編著）, 慶應義塾大学言語文化研究所, 『アジアの文人が見た民衆とその文化』, 2010年, 265頁.
８．桃木至朗（単著）, 大阪大学出版会, 『わかる歴史、面白い歴史、役に立つ歴史－歴史学と歴史教育の再生を目ざして－』, 2009年, 270頁.

〔その他〕
ホームページ等
http://home.hiroshima-u.ac.jp/orient/
http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/main/

６．研究組織
(1)研究代表者
八尾　隆生（YAO　TAKAO）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：５０２１２２７０

(2)研究分担者
桃木　至朗（MOMOKI　SHIRO）
大阪大学・コミュニケーションデザイン・センター・教授
研究者番号：４０１８２１８３

武内　房司（TAKEUCHI　FUSAJI）
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：３０１７９６１８

嶋尾　稔（SHIMAO　MINORU）
慶應義塾大学・言語文化研究所・教授
研究者番号：９０２５５５８９

松尾　信之（MATSUO　NOBUYUKI）
名古屋商科大学・経営学部・教授

研究者番号：４０３０８８３８

蓮田　隆志（HASUDA　TAKASHI）
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：２０５１２２４７
（H.23 →）

西村　昌也（NISHIMURA　MASANARI）
金沢大学・国際文化資源学研究センター・
客員研究員
研究者番号：６０４６９２３６

(3)連携研究者

無し